

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	Adjusted additional pulmonary blood flow keeps the feasible pulmonary artery condition of Fontan circulation—midterm result— (グレン手術時にアディショナルフローを残すことでフォンタン手術後の遠隔期に良好な肺血管を保てるか)		
2. 対象患者	2002年1月～2015年12月までに、当院呼吸器外科・心臓血管外科でアディショナルフロー(心室からの血流や体肺シャント血流)を残したグレン手術を受け、フォンタン手術も終了している患者さんを対象とします。		
3. 対象となる期間	2002年 1 月 1 日 ～ 2015年 12 月 31 日		
4. 実施診療科等	呼吸器外科・心臓血管外科		
5. 研究責任者	氏名	小渡 亮介	所属 呼吸器外科・心臓血管外科
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	なし		
7. 研究の意義	単心室症などでは、フォンタン手術を最終目標とした段階的手術が行われます。フォンタン手術の前段階の手術であるグレン手術の際に、アディショナルフロー(心室から流れる順行性の血流や、姑息手術として行われた体肺シャントの血流)を残した状態でフォンタン手術を行った患者さんの遠隔期成績の報告は殆どありません。その遠隔期成績を報告することで、フォンタン手術を必要とする患者さんのよりよい治療戦略を提唱することができると考えます。		
8. 研究の目的	グレン手術の際にアディショナルフローを残した患者さんの、フォンタン手術前と術後遠隔期の肺血管の状態、心機能、肝機能などの推移を調査し、アディショナルフローを残す戦略がフォンタン循環にどのような影響を与えるかを明らかにすることが目的です。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合の方法等)	本研究は2002年1月～2015年12月当院呼吸器外科・心臓血管外科でアディショナルフローを残したグレン手術後、フォンタン手術に至った患者さんの術前、術後情報を使用しますが、個人を特定できる情報は使用しません。 疾患名や、グレン術前、フォンタン術前、フォンタン術後の年齢、体重、レントゲン上の心胸郭比、カテーテル検査上の肺動脈圧や肺動脈インデックス、肺血管抵抗値、心室拡張末期圧などのデータに加え、採血上の肝機能マーカーとしてAST、ALT、γ GTP、総ビリルビン値、プロコラーゲン、4型コラーゲン、ヒアルロン酸を調査し、それらの値の経時的な変化を統計学的に検討します。 使用する資料については診療録より抽出するため、新たに検査を受けていただくことはありません。		
10. 個人情報の保護	データは匿名化(氏名等を削除し、この研究のための識別符号を付与)し、エクセルファイルで管理します。このファイルにもパスワードをかけておき、二重の保護対策を取ります。		
11. 利益相反に関する状況	なし		
12. 連絡先	呼吸器外科・心臓血管外科 小渡 亮介		
	電話	0172-39-5074	FAX 0172-37-8340